残念な『大阪人』休刊

昨日は『東京人』2020 年 1 月号「寅さんと東京」をレポートで紹介した。多くの絵や写真を見ながら、寅さんと一緒に東京のまちを旅した。レポートにも書いたが、愛読していた『大阪人』は、残念ながら休刊してしまった。写真は最後となった『大阪人』第 66 巻第 5 号増刊、2012 年 5 月 31 日発行である。

最後のページに、休刊のお知らせが掲載されているので、抜粋して紹介する。

本誌は、この 5 月号増刊をもちまして、休刊いたします。長年にわたってご購読・ご愛読いただきました読者の皆さまをはじめ、広告掲載・執筆等でご支援いただきました皆さまに、心より感謝を申しあげます。

『大阪人』は大正 14 年(1925)12 月、当時の大阪市長・関一が設立したシンクタンク・大阪都市協会が創刊した『大大阪』が前身でした。『大大阪』は近代都市・大阪市のあるべき姿と解決すべき問題を記事の柱にして、市民生活と市政の動きを伝えるものでしたが戦時の紙不足で昭和 19 年(1944)1 月号でやむなく中断、戦後、昭和 22 年 3 月号からは『大阪人』と改題し復刊いたしました。以来、「市政と文化」を考える市民雑誌として歩み続け、平成 11 年（1999）には、全国に大阪の魅力を発信することを目的に紙面を大幅に刷新し、全国の主要書店に販路を拡大させました。平成 19 年(2007)からは当財団で事業を継承し、大阪の文化・歴史さらには市政情報等を発信し続けてまいりました。

『大阪人』の経営は厳しい状況にあり、その改善にこれまでも取り組んでまいりました。昨年には、「地元の人、まち」を通じてバラエティ豊かに発信する、ライブ感あふれる雑誌として再リニューアルしたうえで、コンビニエンス・ストアへの販売経路の拡大や価格の見直しなどを行ってまいりました。しかしながら、書店販売部数は伸びたものの、本誌も昨今の景気後退の影響を受け、広告収入等が減収し、収支の改善を図ることがきわめて厳しく、残念ながら休刊することに至りました。

当財団とは大阪市都市工学情報センターである。関一市長設立の大阪都市協会が創刊した『大大阪』が前身の歴史ある『大阪人』が、なぜ休刊に追い込まれたか考えさせられる。大阪市では「維新政治」のもとで、行政資料などの刊行物が相次いで廃止されてきた。こうした流れと『大阪人』休刊が関係あるのだろうか。また調べてみたい。

（2019 年 12 月 16 日）